

平成29年度 社会福祉法人桜友会 事業状況

1. 特別養護老人ホーム ほほえみ福寿の家
2. 短期入所生活介護 ほほえみ福寿の家
3. 通所介護 デイサービスセンターほほえみ
4. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ
5. 訪問介護 ほほえみ訪問介護事業所
(介護保険・障害福祉サービス)
6. 軽費老人ホーム ケアハウス桜
7. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち
8. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち田原
9. 小規模多機能型居宅介護 ほほえみごこち田原
10. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみ栄町
11. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ栄町
12. 居宅介護支援事業所 ほほえみ介護相談センター
ほほえみ介護相談センター栄町
13. 関市中央第4地域包括支援センター
14. 関市認知症初期集中支援チーム
15. 児童心理治療施設 児童心理療育施設 桜学館
16. 子ども家庭支援センター とも
17. 事業所内保育施設 ほほえみ保育園
18. 食事提供部
19. 職員の状況、財務の状況

1. 特別養護老人ホーム ほほえみ福寿の家

●目標達成状況

部課名	取り組み内容	達成状況(%)
そよかぜの街	認知症の知識・技術の理解。認知症リーダー・実践者取得者による勉強会を年6回実施する。	100.0
	認知症の人ではなく、一人の人として向き合い、統一した考えを持ち対応出来るよう、認知症のスキルチェックを年3回実施。	100.0
	残存機能を活かした移乗介護が出来る利用者を選び、チェック表を活用して定期的に基礎技術の習得状況を評価する。・・・4回/年	50.0
	自立支援の介護を行うとともに、ご利用者に安心・安全で快適に過ごしていただく。・・・1ヶ月の満床率98%以上	50.0
新緑の街	移乗介助が困難な入所者を選定し、PTの助言・指導を盛り込んだ介助方法を実践する。ADLの維持又は向上が8割以上を目指す。	100.0
	業務改善箱を常設し、思った時に改善案が提出出来るようにする。改善のための取り組み2ヶ月に1回実施。	100.0
	職員同士の確実な情報共有を行い、ケアの確実性を高める。1ヶ月の満床率・・・98%以上	30.0
	認知症の対応が困難な入所者を選定し、対応計画を立て3ヶ月ごとに評価する事で、対応について学んでいく。認知症に関するスキルチェックを行い、平均点8割以上を目指す。	100.0
せせらぎの街	認知症の知識と技術を確認し評価する。100点満点で70点以上の取得者が70%を目指す。	14.0
	必要な対象者に対して、残存機能を活かした移乗技術のチェックリストをもとに、適正な移乗技術の確認。・・・3回/年	66.0
	1日でも長く施設生活が継続出来る介護を実践する。 満床率・・・98.0%以上/月	58.0
こもれびの街	良質な介護記録の書き方の勉強会の実施・・・6回/年	100.0
	満床率98%以上を目指す。	50.0
	移乗技術・知識の勉強会を行い、個別に習得度をチェックしていく。 ・・・6回/年	100.0
	毎月のミーティングにて暮らしやすい生活環境(居室環境)の提案をし、それに対する効果の確認を行う。・・・12回/年	100.0
看護部	医務室内認知症勉強会の実施・・・2回/年	100.0
	認知症に関する外部研修への参加・・・2名以上/年	100.0
	施設内での感染症の集団発生を防ぐ。・・・0件/年	100.0
	感染症対策についての勉強会を行う。・・・2回/年	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

【満床率】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
従来型(%)	97.0	95.5	97.0	97.6	99.6	98.6	98.4	97.9	98.7	98.3	94.0	97.0	97.5
地域密着型(%)	97.8	98.4	100.0	100.0	97.6	96.7	95.3	98.3	96.3	97.4	100.0	93.4	97.6

●今後の活動に向けて

特養全体	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、全職員が介護技術はもちろん、接遇面・居室の環境面・物品整備など、当たり前前を当たり前前に出来るよう、主任・サブリーダーが中心となり職員の意識付けや日頃から指摘しあえる環境作りに努める。 年間を通して介護施設が求められる身体拘束廃止、リスクマネジメント、看取り、感染症、褥瘡についての勉強会を全職員が出席できるように実施していく。 介護ロボット等の導入を検討し、職員の負担軽減を図ると共に、ご利用者にも安全で安心して過ごして頂けるように努めていく。 入院床を減少させ、利用者が安心して長く過ごして頂けるよう日頃のケアの充実、利用者の状態観察、異常の早期発見・早期対応に努めていく。
そよかぜの街	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者に対し、目の前の小さな事に対してもしっかりと耳を傾けその場で対応していくよう、職員同士の声掛け連携の意識付けを行っていく。 前年度、認知症に対しての取り組みに力を入れ実施してきたが、利用者の状況によって職員の対応方法に統一性がないため、平成30年度においても認知症の知識・技術を学び統一した対応が出来るように取り組む。 利用者1人1人への介助方法の見直し、その人に合った方法で介助することにより安全に適切な介護を目指していくよう取り組む。
新緑の街	<ul style="list-style-type: none"> 特にコミュニケーションが取りづらい介護度の高い方に対して、職員によって対応の差が見られるため、意思疎通が可能な利用者同様に対応出来るよう接遇面での意識付けを図り、安心して過ごして頂ける環境作りを行う。 入所者に対し、毎日の楽しみが持てるように、室内で出来る園芸のレクリエーションを考えていく。ある程度自立された利用者から、「退屈」という意見が出ている為、レクリエーションの幅を広げていく。 基本的な介護に関する知識や技術のレベルを向上させるために、毎日、小勉強会を行っていく。
せせらぎの街	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いなど、接遇面に関して適切に行えるよう勉強会を交え取り組んでいく。 認知症の方の対応について、外部研修・内部研修を用いて理解を深め、相手の立場に立ち安心して生活していただけるよう努めていく。 実際の介助や対応のロールプレイを職員同士で行い、自分自身の対応について見直し、全職員が統一した意識で介護できるようにしていく。
こもれびの街	<ul style="list-style-type: none"> 入居者、ご家族の要望や希望を都度伺い、充実した生活支援が行えるようコミュニケーションの充実を図る。 入職1年半未満の職員が半数を占めており、介護業務以外の細かな所まで指導が行き届いていない部分が見られ、既存職員の負担が大きい。業務の引継ぎを行い、業務量を分散することで負担軽減に努める。 外出行事の充実、クッキングレクや創作活動、地域密着型として地域のボランティアの新規獲得を行い、入居者に充実した生活を送っていただけるように努める。
手護如	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修への参加を促し、介護現場では得られにくい医療的な情報も得られる機会を設け、ス

2. 短期入所生活介護 ほほえみ福寿の家

●目標達成状況

取り組み内容	達成状況(%)
認知症に関する勉強会を実施し、知識とスキルのチェックを行う。 勉強会 年3回 知識・スキルのチェック 年3回	100.0
負担の少ない介護技術の勉強会を実施し、知識・スキルのチェックを行う。 勉強会 年3回 知識・スキルのチェック 年3回	100.0
1ヶ月の満床率90%以上	66.7

●利用状況(平成30年3月末現在)

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均利用者数(人)	22.0	18.7	23.9	22.3	24.5	25.1	24.0	25.2	25.6	24.9	23.1	24.2	23.6
満床率(%)	84.5	71.8	91.9	85.9	94.2	96.4	92.3	96.9	98.4	95.8	89.0	93.3	90.9
平均介護度	3.3	3.1	3.1	3.1	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	3.0	2.9	3.0	3.1

●今後の活動に向けて

- ・アンケート結果にもあったように、季節行事等のイベントをレク担当と協力し、充実させていく。実施期間を増やしたり、参加人数を増やすなどより多くの利用者に参加して頂けるよう工夫をしていく。
- ・利用者家族、各事業所に対し、情報提供を積極的に行っていく。家族に対してはあったかノートを通して利用時の様子や状況等を詳しく伝えられる様、職員に指導をしていく必要がある。事業所に対しては、連絡を待つだけでなくこちらから利用時の様子や体調について等、積極的に情報共有を図り、信頼関係を築いていく必要がある。
- ・現在、ショートステイ専用玄関は、玄関だと分かりづらい事と冬には外気が入りホール全体が寒くなり、利用者からも寒さの訴えがある為、二重扉の増築を検討する事で、過ごし易い環境を整えていく。
- ・長期利用者が、特養に入所されると実績が大きく低下してしまう。各事業所に継続的に営業活動を行い、長期利用者の確保する事で実績回復に努める。

3. 通所介護 デイサービスセンターほほえみ

●目標達成状況

取り組み内容	達成状況(%)
①-1 認知症に特化した勉強会及び事例検討会を実施する。⇒10回/年実施	100.0
①-2 認知症に関するスキルチェックを実施する。⇒35点以上が100%(毎月実施)	0.0

② ご利用者様のニーズ、身体状況、自宅環境に沿った効果的な訓練内容を検討する。⇒ケアカンファレンス2名以上/月	100.0
③-1 ご利用者様のニーズに沿った選択レクリエーションを実施する。⇒3回以上/月	100.0
③-2 ケアマネージャーにサービス内容をアピールし、利用日追加や新規利用者を獲得する。⇒1ヶ月の稼働率95%以上	58.3

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均利用人数(人)	31.4	32.7	33.9	31.8	31.3	33.3	34.4	35.0	34.5	28.8	31.2	32.9	32.6
平均介護度	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.3

●今後の活動に向けて

<p>・利用者の満足度を上げる取り組み①として、リハビリは、従来の効果測定から、バーセルインデックスに変更し身体機能、生活機能(ADL)を評価していく。在宅環境のアセスメントは必須である為、サービス担当者会議等を活用し、目標を共有し、具体的な訓練の反映していきたい。また、実施時間は個々のプログラムによって差がある為、理学療法士の知識を活かし、複数のメニューを組み合わせ、リハビリの成果が実感できるようにしていきたい。ケア会議を活用し、日頃の生活動作を観察し訓練につなげていきたい。</p> <p>・利用者の満足度を上げる取り組み②として、「色鉛筆」「筆ペン」「絵手紙」「ミニ脳トレ」「折り紙」「壁紙作り」「スポーツレク」などのクラブを作り、集団レクの他に2種類以上のクラブを活動を行い、利用者選ぶ楽しさを味わってもらえるようにしていきたい。</p> <p>・自立支援を目指す為の取り組みとして、利用者のグループを見直し、自立(軽度の認知症含む)と中重度者に分けていきたい。現在、認知度、身体状況に合わせ3つのグループに分けているが、広い部屋の利用者の中には、職員の介助を必要とする方と、ほぼ自立の方が混在している。その為、配膳、下膳、整容、水分補給等の場面で介助することが多くなっている。自立(軽度の認知症含む)のグループの方には、自分のことは自分で行って頂き、「できる」が継続できるように支援していきたい。更にベッドが片方の部屋に集中している為、部屋の半分近くが静養スペースになっていることも、意欲の低下につながっていると思われる。活動スペース、食事スペース、静養スペースなどが偏ることのないように、レイアウトも含め検討していきたい。</p>

4. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ

●目標達成状況

取り組み内容	達成状況(%)
①-1 認知症に関する勉強会、又は困難事例について検討する。毎月実施	100.0
①-2 認知症に関するスキルチェックを実施する。35点以上が100%	41.7
②-1 役割のある食事作りを企画・実施する。1ヶ月3回以上	100.0
②-2 ケアマネージャーにサービス内容をアピールし、利用日追加や新規利用者を獲得する。1ヶ月の稼働率75%以上	25.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均利用人数(人)	8.0	8.2	9.0	9.1	8.8	8.6	8.6	8.4	8.5	8.2	8.7	9.6	8.6
平均介護度	2.0	2.0	1.9	2.0	2.1	2.1	2.2	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

●今後の活動に向けて

・毎日のおやつ作りについては、やりたい方が多く、利用者の分だけでは多くの工程に関わって頂くことができない為、定期的に多めに作る日を設け、法人職員に販売したり、注文にも応じていきたい。また、ご家族、ケアマネジャー、法人の職員など、まなびやに気軽に遊びに来てもらう為、「まなびやカフェ」をオープンし交流の場にしていきたい。また、「家族参観日」を希望される方もある為、まなびやカフェを活用し、ご利用者の表情を見て頂くだけでなく、同じ目標でケアする為には、施設とご家族の連携が不可欠であることを伝える場にしていきたい。

・昔の懐かしい映像や本を活用した回想法や、季節が感じられる外出や室内レク、経験を活かした料理等の活動を継続し、認知症の進行予防に努めていきたい。また、傾聴、化粧などのボランティアを募り楽しみのある活動を増やし、地域の方との交流が刺激になる様にしていきたい。また、やりがい、達成感を味わって頂く為、共同で居室に飾る大きな壁紙を制作し、月間デイへ応募したり、他部署に掲示してもらえるように計画していきたい。

・午前と午後に体操を取り入れているが、座位で過ごす事が多く、運動量が少ない為、施設周辺や公園に出かけ、外気や自然に触れる機会を多くしていきたい。また、保育園児と交流の機会も作り笑顔が増える活動を取り入れていきたい。

5. 訪問介護 ほほえみ訪問介護事業所(介護保険・障害福祉サービス)

●目標達成状況

取り組み内容	達成状況(%)
①訪問介護の援助技術を向上させ、時間幅の拡大に努め利用率向上を目指す。 615時間/月	103.8
②認知症が進行しても在宅生活が継続出来るよう個々にフィットしたオーダーメイドの介護を実践していく。認知症を抱えるご利用者の事例検討会開催。 1回/1ヶ月	100.0
③新事業に対する勉強会や意見交換会を開催。職員が抱える疑問や不安を解決し対応する職員を中心にサービスを展開していく。新たな事業や制度に関する勉強会及び意見交換会の開催 1回/1ヶ月	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サービス提供時間 身体介護(h)	155.0	163.5	180.5	181.5	138.0	195.0	159.5	140.0	131.0	131.0	142.3	169.3	1,886.5
サービス提供時間 生活援助(h)	318.0	351.8	374.5	381.3	377.8	411.5	420.5	408.0	387.0	305.8	296.5	344.8	4,377.3

サービス提供時間 総合事業(h)	130.0	93.0	84.0	70.0	86.0	106.0	131.0	94.0	81.0	60.0	66.0	77.0	1,078.0
平均介護度	1.6	1.6	1.9	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8	1.9	2.0	1.9	2.0	1.8

●今後の活動に向けて

1) 訪問介護利用実績について

職員の異動等に伴い、目標時間数を削減し調整した。人手不足がなかなか解消せず、それに対し利用希望は増加傾向という状況である。新規依頼を断っても、利用者からの追加利用が多く、配置職員に対し、訪問時間が多い状況が続いている。限られた人材で事業所が運営できる様、稼働状況を見直し、職員の負担も考慮しながら事業所を運営していきたい。

2) 認知症対応について

認知症を抱えながら在宅で暮らすご利用者が増えている。介護者の知識や理解が薄く、対応の仕方を指導する事も増えてきた。毎月行った事例検討で認知症の病状に合わせた個別の対応を検討し、個々に合わせた介護が実施できる様努めた。ご家族と一緒に認知症の方が、住み慣れた自宅で生活できる様支援していきたい。

3) 新事業に関する勉強会について

総合支援事業・障害者移動支援開始に伴い、職員の不安が強かったが、毎月新事業に関する意見交換会を開催し職員の疑問や不安な気持ちを解消しながら制度の熟知に努めた。介護保険・障害福祉・総合支援事業を同一のヘルパーで対応している為、制度を理解し個別に適切な対応が出来る様、継続して取り組んでいきたい。

6. 軽費老人ホーム ケアハウス桜

●目標達成状況

取り組み内容	達成状況(%)
1: 個別面談を行い、入居者様の望みを聞き取りその人らしい生活をお過ごしいただけるよう支援する。 1人2回/年	100.0
2: 入居者様一人ひとりの思いに気付き理解し、職員が統一した支援をする。 2人1回/月	100.0
3: グループホーム等に職員が出向き、一人の人として尊重されていると実感できる支援を学ぶ。 4回/年	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	男性	女性	合計
入居者数(人)	11	14	25

●今後の活動に向けて

・居室内で転倒事故が発生したため、居室内での事故等のトラブルのリスクの高い入居者様の把握をし、職員間で情報共有を行い安全に過ごしていただけるよう取り組む。

7. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
①-1 運営推進会議にて認知症のある方への取り組みを発表する。2件以上/年	100.0
①-2 認知症カフェを開き、認知症の方を通じ地域社会との関わりを深める。2件/年	100.0
② 3ヶ月に1回以上有給休暇をとる。1人4回/年	100.0
③-1 入居者又は家族毎にアンケートをとり、思いをくみ取り実行する。4回/年	100.0
③-2 認知症勉強会を現場職員を主体に開催する。6回/年	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在) 平均要介護度 2.0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	割合(%)
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	22.0
要介護2	6	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	53.0
要介護3	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	26.0
要介護4	0	0	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	7.0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
実人員計(人)	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	-

●今後の活動に向けて

10月に入居者全員が補助具を使い歩行ができる状態となった。ADL低下への取り組みとして毎日の体操を増やすと共にボランティアの協力を得て散歩の機会を増やし、遊んだりセラバイタル、健康寿命を伸ばす体操等で転倒防止・下肢筋力向上への取り組みを強化していく。

平成30年度は職員全員が認知症介護に対し職務意識を持ち、気づきを養い、毎日の小ミーティングやミーティングでも全員が自分の意見を討議出来るよう促し、働きやすい環境づくりに努めていく。

8. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみごこち田原

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
①認知症勉強会を現場職員を主体に開催する(6回/年)	100.0

②ひもときシートを活用し入居者・利用者の「～したい」の思いを理解し情報共有する。 (対象者全員/年)	100.0
③認知症に関する外部研修か資格のいずれかを全員が受講もしくは取得する。 (全職員1項目以上/年)	70.0

●利用状況(平成30年3月末現在) 平均要介護度 2.4

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	割合(%)
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護1	2	2	2	2	2	2	3	3	4	4	4	4	45.0
要介護2	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	45.0
要介護3	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	10.0
要介護4	3	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	10.0
要介護5	1	1	1	1	2	1	1	1	1	0	0	0	0.0
実人員計(人)	10	9	9	9	10	10	10	9	10	9	9	9	-

●今後の活動に向けて

①入居者に対しての言葉遣いや配慮、心遣いが不足している部分があり、個々に対する統一した気配りができるようにしていきたい。
②業務のやり方が非効率になっている部分がある為、業務手順を見直し効率化を図りたい。

9. 小規模多機能型居宅介護 ほほえみごこち田原

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
①認知症勉強会を現場職員を主体に開催する(6回/年)	100.0
②ひもときシートを活用し入居者・利用者の「～したい」の思いを理解し情報共有する。 (対象者全員/年)	100.0
③認知症に関する外部研修か資格のいずれかを全員が受講もしくは取得する。 (全職員1項目以上/年)	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数(人)	22	20	20	21	21	22	22	22	23	24	23	23	21.9
通い利用延べ(人)	399	384	354	392	453	427	461	449	491	444	394	424	422.7
泊り利用延べ(人)	245	230	215	250	253	228	264	247	269	253	224	205	240.3

訪問利用延べ(人)	174	173	155	138	158	152	168	217	196	203	215	236	182.1
-----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

●今後の活動に向けて

①登録者は、新規契約者10名の登録があったが8名の登録抹消と人員不足もあり受け入れることができず登録数が伸びなかったため、加算を取得と顧客確保で収入アップに努めたい。
 ②利用者に対しての言葉遣いや配慮、心遣いが不足している部分があり、個々に対する統一した気配りができるようにしていきたい。
 ③業務のやり方が非効率になっている部分があるため、業務手順を見直し効率化を図りたい。

10. 認知症対応型共同生活介護 ほほえみ栄町

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
1-①認知症勉強会の開催・外部研修含む(3回/年)	100.0
1-②職員同士で話し合い利用者様に寄り添える技術を身につける。(6回/年)	100.0
2-①職員教育として接遇・施設の理念を伝え統一する。(開所時/採用時/年2回)	100.0
2-②行事を通し地域・自治会の方との交流を深め信頼関係を築く。(6回/年)	100.0
2-③地域で不足している資源で協力できる部分を探る。(2回/年)	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在) 平均要介護度 1.9

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	割合(%)
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護1	2	2	5	6	7	7	7	7	6	7	6	5	31.0
要介護2	2	3	5	5	6	6	7	7	7	7	8	8	33.0
要介護3	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	17.0
要介護4	0	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	6.0
要介護5	0	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	2.0
実人員計(人)	6	9	15	16	18	18	19	19	18	19	18	17	-

●今後の活動に向けて

①認知症ケアのスキルアップ向上→年間を通し職員の意識を高める事や研修に参加する機会を設けた。
 ②地域の方との交流(認知症カフェへの参加)→年間を通し定期的に出席される方が増えた事で馴染みの関係作りと良好な関係を築くことにつながっている。

- ③利用者様が参加できる楽しみを作る→手作業への参加や他者との交流。行事を通し季節の移り変わりを身体で感じていただきながら生活の楽しみにつなげるように取り組んだ。
- ④本人・ご家族共に充実した1日を過ごせる環境の整備と生きがい作り→本人の得意としていることをリストアップし生活の中で参加の機会を設けるように取り組みたい。
- ⑤地域の方との交流(認知症カフェ栄への活用)→参加される方の要望を今後も聞き取り講座の内容を検討。
- ⑥認知症ケアのスキル向上と職員がお互いに認め合い、成長できる職場作り→職員同士の声のかけ合い、話し合う場を設け意見の出し合える関係作りと信頼関係を築けるようにする。

11. 認知症対応型通所介護 まなびやデイサービスセンターほほえみ栄町

●目標達成状況

取り組み内容	達成状況(%)
①-1 認知症の理解、知識を深める為の勉強会を開催する。 1ヶ月/1回	100.0
①-2 認知症に関するスキルチェックを実施する。 平均35点以上で100%	100.0
②-1 ご家族との面談や電話連絡を基にケアの方向性を検討する。	50.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1日平均利用人数(人)	2.1	3.0	3.7	4.1	5.7	5.2	6.8	8.8	9.3	9.6	9.3	9.7	6.4
平均介護度	1.7	1.9	1.8	1.9	1.8	1.8	1.8	1.6	1.8	1.7	1.8	1.7	1.8

●今後の活動に向けて

・ケアマネージャーとご家族の両者から、「認知症の進行を防止できる様な楽しい取り組み」を期待する意見が多く聞かれました。施設の敷地内の畑で「生きがいづくり」と「もの作り」を行いご利用者様の持っている能力や技術・知恵などを発揮できるようにしたいと思います。又、小物や掲示物作りの展示の工夫を行い、地域の方に見て頂く事でやりがいに繋げ認知症状の緩和や進行防止に努めたいと思います。

12. 居宅介護支援事業所 ほほえみ介護相談センター

ほほえみ介護相談センター栄町

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
--------	---------

1. 主任ケアマネによる定期的なスーパービジョン面談各自年3回以上。利用者の自立支援につながるケアプランを作成し、短期目標の期間内における目標達成率を90%以上にする	94.4
2. 法人内の他事業所職員と交流や情報交換を目的とした意見交換会を年4回以上行い、連携を強化するとともに事業所間の横の連携が円滑に行えるようにする	100.0
3-①新規受け入れ件数月10件以上	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稲口	介護(件)	140	148	140	144	140	141	136	147	144	147	145	151	143.6
	予防(件)	30	31	32	33	35	29	28	30	33	31	33	35	31.7
栄町	介護(件)	34	33	35	31	33	32	34	32	36	34	34	33	33.4
	予防(件)	23	27	22	25	24	29	26	28	24	23	22	22	24.6

●今後の活動に向けて

<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から実施している法人内他事業所との交流会を今年度も行う。その際、他事業所とケアプランの内容について話し合うことでより実効性のあるプランの作成ができるようにしていく。 ・医療との連携時における加算の改定に伴い、入退院時の情報連携を必須とし、利用者の退院後の円滑な在宅生活への復帰のために可能な限り退院時カンファレンスの開催を医療相談員に依頼する。また、関市居宅介護支援専門員連絡会の研修会を通じ、医療関係者との円滑な連携ができるよう研修会を通じ研鑽する。 ・各職員が法人の窓口としての意識を持ち、新規利用者確保、利用件数の維持に努めるとともに算定可能な加算は必ず算定する意識を持つ。請求時の集計の自動化など、簡易化できる業務を探し、共有することで業務の効率化を図る。

13. 関市中央第4地域包括支援センター

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
1. 地域の活動に積極的に関わっていくことで地域をより理解し、地域に働きかけていくことで、地域住民の相互のつながりや住民参加のまちづくりを目指していく。 (出前講座や認知症サポーター養成講座等の依頼で地域に出向く回数 10回/年)	100.0
2. 総合支援事業に向けた地域での介護予防事業を進めていく。(①地区内での介護予防教室開催 6回/年、②新規立ち上げの協力地域を持つ 1カ所以上)	100.0
3. 地域の困難ケースをできるだけ早期に解決する為、関係機関が集まり個別ケア会議を開催していく。(個別のケア会議の開催 12件/年)	25.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
相談(件)	92	121	163	94	92	98	97	96	102	130	114	129	1,328	110.7
訪問(件)	133	121	132	130	162	146	137	142	180	119	147	149	1,698	141.5

●今後の活動に向けて

(1) 地域に積極的に出向き、地域を把握しながら包括の役割果たし、地域との信頼関係を築いていく。現在活動している住民の活動の継続支援をしていく。さらに地域事情に応じて、生活コーディネーター等と連携を図り、新しい活動の立ち上げを支援する。
(2) 複雑化するケースを地域課題として捉え、多職種と連携し、役割を明確にすることで、問題解決につなげていく。
(3) 引き続き、認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に対する正しい理解を地域で深めたい。今後も、小学校での高齢者体験等も行い、若い世代への啓発も行っていく。

14. 関市認知症初期集中支援チーム

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成状況(%)
1-① 市内で開催される認知症カフェへの参加 : 月1回	100.0
1-② 市内で開催される地域ケア会議への出席 : 全開催数の90%	98.1
1-③ 支援対象件数 : 月40件	95.2
2-① スキルアップ向上のための外部研修受講及び伝達 : 年4回	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
対象者(件)	33	36	37	39	38	39	39	40	40	36	41	42	460	38.3
訪問(件)	31	38	29	33	36	39	27	32	29	24	19	29	366	30.5

●今後の活動に向けて

① 認知症に特化した支援チームとして、認知症の早期発見・早期対応の重要性を伝えつつ、支援チームの活用。
② 認知症カフェの普及啓発を通じて、ご本人の外出機会の拡大とご家族のストレス軽減を図る。
③ ケースにおけるチームの役割を明確にして、包括・ケアマネ等への引継ぎをスムーズに行う。
④ 支援終了後、ケースに動きが生じた場合の関与について、引き継ぎ先の包括・ケアマネ等と明確に確認する。

電話相談(件)	48	54	63	65	82	136	113	109	51	60	49	63	893	74.4
来所相談(件)	14	18	13	28	30	23	27	33	35	17	34	31	303	25.3
訪問相談(件)	12	36	35	36	52	57	52	32	38	37	34	26	447	37.3
心理療法等(件)	8	7	24	11	17	24	26	23	21	27	37	29	254	21.2
その他(件)	5	8	3	11	9	21	18	42	17	12	14	13	173	14.4
合計	87	123	138	151	190	261	236	239	162	153	168	162	2,070	172.5

●今後の活動に向けて

1) 日本の社会的養育は、施設から「家庭と同様の養育環境(里親、ファミリーホーム、養子縁組)」に移行し始めた。フォスタリング機関をめざすべく、里親支援の機能強化の一つとして、H30年度より里親向けにペアレントプログラムを提供する。

2) 効果を上げている相談活動のひとつが、心理療法等担当職員と相談員がペアで行う個別のソーシャルスキルトレーニングである。「三つの家」を用いて親と子から解決ニーズを拾い、子どもと行動改善の目標を立てて進める。子どもが力をつけることで親の心が安定し、虐待予防にもなるので、関係機関にアピールしていく。

17. 事業所内保育施設 ほほえみ保育園

●目標達成状況

取り組み内容	達成率(%)
①園児が楽しめる行事等の開催	100.0
②ミーティングで園児の情報共有と現状の発達段階の確認	100.0
③お便りや写真販売、作品制作で園での生活・様子を知らせる	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

登録園児	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
桜友会(人)	4	10	11	6	8	9	48
明萌会(人)	1	0	0	0	1	1	3
地域(人)	1	1	2	3	0	0	7
計	6	11	13	9	9	10	58

(注記)年齢は平成29年4月1日時点の年齢とする

利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人数(人)	32	27	25	27	34	29	33	33	33	29	29	31	30.2

延べ人数(人)	251	202	219	230	285	253	266	273	273	263	263	285	255.3
1日平均(人)	8.4	6.5	7.3	7.4	9.2	8.4	8.6	9.1	9.1	9.1	9.5	9.2	8.5

●今後の活動に向けて

- ①平均利用人数9.0名を維持するため、イベントのお知らせやリフレッシュ利用の案内を継続する。保護者が安心して預けられ、園児が楽しめる、皆に使ってもらえる保育園を目指す。
- ②お便り等を通して、子の様子を保護者等へ伝え、保護者の疑問や不安が解消できるようにする。また、必要な情報やお願いも積極的に伝える。
- ③園児1人1人の発達に応じた発語を促すため、絵本・大型絵本、紙芝居等で正しい日本語を読み聞かせる機会を定期的に設ける。
- ④必要な知識を書籍で得るとともに、外部研修も活用して効率的にスキルアップを図る。

18. 食事提供部

●目標達成状況(%)

取り組み内容	達成率(%)
1.ヒヤリハット報告に基づく業務手順を守らなかったことによる誤配膳の件数	0.0
2.セントラルキッチンのスムーズな運営に備えたプロセスの構築	100.0

●利用状況(平成30年3月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
食数(食)	884	934	969	1071	1075	1060	1039	940	910	868	867	843	11,460	955.0

●今後の活動に向けて

セントラルキッチンでの調理・食事提供がスタートしたことで、当日調理から事前調理になった。今までと同じ献立でも食材の色味や食感が変わったり、味が染みて濃くなったりすることがわかってきた。まずは安定した食事を提供できるように体制を整えることが第一と考える。まだ少ない人数で試行錯誤しているが、老人施設、児童施設、外部サテライトとそれぞれの課題を一つ一つクリアしていけるように食事提供部全体で取り組んでいきたい。

19. 職員の状況、財務の状況 (H30.3.31現在)

●職員数 直接雇用 289名、派遣等 7名 合計 296名 (前年 298名)

●離職率 11.42% (前年 8.9%)

●有給休暇取得率	40.5 %	(前年 32.8 %)
●流動比率(短期安定性)	421.7 %	(前年 546.6 %)
●純資産比率(長期安定性)	94.7 %	(前年 122.2 %)
●人件費率(コスト合理性)	71.3 %	(前年 72.5 %)
●経常増減差額率(収益性)	6.7 %	(前年 3.9 %)